Maebashi Biennale 2026 ／ 地域協働プログラム

ARKHENODE

移動式公開編集会議「アルケノード」

第一回簡易記録

2026.06.13 sat

まちの端、川沿い、音楽



非売品
立読専用

ARKHE NODE
editorial committee

二〇二六年六月十三日、土曜日。前橋まちなかで、移動式公開編集会議「アルケノード」の第一回が始まった。

午後三時、本屋水紋の二階に十五人ほどが集まり、機材を積んだ手づくりの屋台を引いて、まちを二時間ほど歩いた。最後にたどり着いた馬場川沿いの古民家「MEGREM studio」で、ふたりのゲストの話を聞いた。



ARKHENODE とは

ARKHENODE — 前橋国際芸術祭2026の地域協働プログラムのひとつ。まちで活動するひと・店をゲストに、屋台を引いて街を歩き、そのあと公開取材の形でトークを開く。半年分の記録は、来春に一冊のZINEに仕立て上げる。



ACT 01 — ARKHĒ

まち歩き

arkhē — 始まり・根源



本屋水紋を出発。屋台には、前橋テルサから譲り受けた照明、お花屋やミシン教室から引き取った机、ＤＪに作ってもらったＢＧＭ。前面には古い時計が嵌めこまれているが、その針はうまく進まない。

引き手は参加者の交代制。疲れたら止まり、屋台は別の参加者に引き継がれる。



ドラマのセットでレトロに磨きがかかった弁天通りを抜け、広瀬川沿いへ。勾配のある場所はみなで押す。まる兵ラーメンの跡を通り、裏弁天通りのCASA FRESCO、diff、hengeniの前へ。アイスコーヒーで一息ついて、双子蒸留所の前を抜け、太陽の鐘の横でまた休む。

まちの端をなぞるように、川と店のあいだを歩く。







広瀬川沿いでは、市の河畔整備を担当する中澤さんが、川の手入れについて話してくれた。

「もともと車道と歩道に分かれていたのを一体化して、歩きやすい場所にしました。前橋は絹糸産業で栄えた町。絹糸を保存していた蔵を象徴する素材として、レンガを採用しました。植栽はアジサイ、ナデシコ、オミナエシ、シモツケ、ハギ、キキョウ、オカトラノオなど、日本古来の種類を中心に……」





ACT 02 — NODE

公開取材

node — つながり・節

GUEST 01

近藤康裕

グルマンカレー店主／
音楽イベント「マジックアワー」主宰



▼料理との出会い

小学校五年生のころ、漫画『美味しんぼ』のカレー回を読み、再現できないかと考えたところからカレーにハマった。その後、料理全般にハマるきっかけに。

群馬調理専門学校（駒形）に進んだのは、フランス短期留学制度があったから。二年生のときフランスのアルカションへ。現地の店で三ヶ月働いた。

帰国後、群馬中央病院の調理場に就職。フランス料理屋で働いていた時期、チーフシェフに「洋食屋に就職しろ」と言われたが、音楽ライブに行くために連休がもらえる職場を求めて病院に勤めることにした。この選択について、シェフとは大喧嘩になった。

▼広瀬川沿いに店を開く

子どもの頃から広瀬川の近くで遊んでいて、店をやるなら川沿いがいいと思っていた。病院勤めの頃に通勤路で「貸店舗」の貼り紙を見つけて、その場で問い合わせた。元はスナックだったようだ。



「カレー屋って名乗ってる以上は、美味しいカレーを出すっていうのは当たり前だと思っていて。そこにプラスで何ができるかっていうのが、お店として面白がってもらうための境目だと思っています」

▼音楽イベントの主催

前橋市のモバイルＢＯＸ（市民誰でも申請して使える）を使い、ＤＪイベントを広瀬川周辺で何度か開催している。前橋三大祭りのひとつ「七夕まつり」では、広瀬川沿いの主催枠でライブを企画。20年以上聴いてきたbonobosの蔡忠浩さんを呼んだ。

中央通りで偶然、アーティストの中村一義さんを見かけて声をかけた。江戸川区在住のはずなのに、中央通りを散歩で歩いていた。ファンだと伝えて、「前橋にライブをやりに来てくれませんか」と話したらその場で承諾。後日、前橋市文化芸術れんが蔵でのライブを主催させてもらった。

イベントは「ラジオ最高会議」「星野源Mad Hope最高会議」など、好きな何かを語り合う形式を続けている。次は「ジョジョ最高会議」を夏頃にやりたいとのこと。

他に呼んだアーティストとして、奇妙礼太郎さん（病院を辞めた初年度に呼んだ）、サンデーカミデさん（あいみょんなどのプロデューサー、店で「読書ラバダブ」を再現）、永井琳子さん（シンガーソングライター）など。好きの一点突破で実現。

GUEST 02

MEG

MEGREM studio 店主／
元 民謡クルセイダーズ



▼音楽の経歴

高崎生まれ。小さい頃からピアノを習い、高校生のころから声楽（歌）を始め、学生時代は歌を専攻。学生時代から東京で過ごす時間が長くなる。クラシック以外の音楽はほとんど知らなかった。

バンド「フィッシュマンズ」のオリジナルギタリスト・小嶋謙介さん（現デザイナー）と知り合い、レコード愛を語られた。下北沢のレコード店「フラッシュ・ディスク・ランチ」の店主・椿さんを紹介され、給料が出るたびに通うようになる。クラシック以外を知らなかったので、何を聴いても楽しかった。

バンド「Buffalo Daughter」のムーグ山本さんから、レイ・チャールズの7インチを探していたところ声をかけられ、「DJに向いてる」と言われて「ムーグシスターズ」というパーティーでDJデビュー。

さらに「THE SKA FLAMES」の水野さんから、「すでに解散してしまった面白いバンドがある」と聞き、デビュー前の7インチが一枚だけある状態だった「民謡クルセイダーズ」を再結成。十人編成のバンドに発展した。



▼四足のわらじと、ワールドツアー

バンドとDJを続けながら、本業として杉並区の教育委員会に所属し、小学校の図書館司書を務めた。給料だけではレコードを買い続けられないので、夜は駒場の東京大学図書館で図書館司書も兼業。四足のわらじ。

民謡クルセイダーズがイギリスのマイス・ウン・ディスコス・レーベルから海外流通を開始。これに伴って二〇一九年にワールドツアーが決まり、長期休業の必要から、学校司書の仕事をやめた。同僚に音楽活動のことを初めて打ち明けた。

「オランダの川が本当にきれいだったんですよね。で、広瀬川を見た時に、なんてきれいな川なんだろうと思って。みんなが、それぞれの川を広瀬川に投影してるのかも」

▼群馬へ戻り、馬場川沿いを選ぶ

出産を機に群馬へ戻ることに。新しいハウススタジオの場所を探していたとき、河内音頭の音頭取りで「五月家一蘭」の名前も持つミュージシャン仲間のユキーラちゃんが、群馬県庁のGINGHAMの仕事で来ていて、マチスタント田中さんを紹介してくれた。

最初は広瀬川沿いを探していたが、田中さんが見つけてきたのが今のこの場所（馬場川沿い、中心地から少し外れた静かな立地）。即決した。それからDIYで天井をぶち抜いたり、土壁を抜いたり、タイルを張ったり、壁を塗ったりして、一年ほどかけてスタジオを作った。昨年（二〇二五年）十一月二三日にオープン、半年経過したところ。

パリの映像作家ヴィンセント・ムーンに「ちょっと一曲」と本番前に外の川に連れ出されて撮影した経験が、自分のなかに強く残っていて、川のほとりに場所を作ろうと思ったきっかけのひとつだった。ちなみにグルマンカレー隣のLa Clocheの店主は、「広瀬川はセーヌ川だと思ってる」と話している。



Q　なぜ高崎ではなく、前橋に拠点をかまえた？

近藤　高崎で「MOTOKONYA」のフリースペースを月イチで一年ほど、病院に隠れて借りていたことがあった。やってみようと思って高崎市役所に行ったら、なんだか温度を感じなかった。前橋市役所に行ったら、創業する人にすごく優しくて、丁寧に話を聞いてくれた。補助金・助成金も整っていて、始めるハードルが下がっていく感覚があった。それに伴って街中でいろんな人と出会うと、ラフコーヒーもそうだけど、優しい人が多かった。**結局、人でしたね**。

MEG　私も高崎生まれで、最初は高崎で探していた。でも、やっぱり前橋の方が、文化的な匂いがした。面白いクリエイターの人が集まってきていて、**もっと面白くなりそうな匂いを感じた**。キュッと街中に集まっていて、ぐるっと回れる。大手ではなく、個人商店が頑張っている。自分がずっと暮らしていた西荻窪や阿佐ヶ谷あたりを彷彿とさせるところがあった。

Q　お二人ともすごく忙しいのに、
店も音楽もやれているのは、どうして？

MEG　体は大変ですよ（笑）鍼を打って漢方を飲みながら動いてる感じなんですけど、思いついたことを実行しないのが気持ち悪いんですね。だからそのストレスを取るのであれば、**疲れるけれど、思いついたことはやってしまいたい**っていう方が勝つっていう感じで。気が済まない性分だっていうだけですね。

近藤　カレー屋は、食べて喜んでくれる方の顔が見たいというのが第一。ライブ主催の方は、初めて奇妙礼太郎さんを呼んだのがコロナの終わり頃で、「なんで今やるんだ」と言われた。でも、**ここでやらないと音楽文化が途切れちゃう**気がして。お客さんから「やってくれてありがとうございます」と声をかけられて、それが本当に嬉しかった。みんなめちゃくちゃいい顔してんじゃん、と思って。






HEADQUAR


ARKHENODE
editorial committee

前橋国際芸術祭2026 - 地域協働プログラム
ARKHENODE
2026.06.13（土）第1回 簡易記録
制作：市根井直規

ルート
本屋水紋2階 → 前橋まちなか → MEGREM studio

ゲスト
近藤康裕（グルマンカレー店主／マジックアワー主宰）
MEG（MEGREM studio 店主／DJ・元民謡クルセイダーズ）

アルケノード編集委員会
田中隆太（企画・会計）
寺澤由樹（デザイン）
市根井直規（編集）

Instagram：@arkhenode

アルケノード Season 1

まちを耕す地元のひと・店と。

6/13（土）　第1回　まちの端、川沿い、音楽
Guest：近藤康裕（グルマンカレー）、MEG（MEGREM studio）

6/20（土）第2回　建築家と飲食店、それぞれが見るまちなか
Guest：木暮勇斗・新井裕作（AANE/IINE）、玉橋南実（Hazumi）

7/4（土）第3回　学生の頃からまちなかに関わるふたり
Guest：竹内躍人（ルルルなビール）、岡田友大（Maebashi Works）

7/18（土）第4回　裏弁天の逆襲
Guest：金山慎太郎・金山杏菜（hengeni）、野口泰平（FRESCO）

2026年6月〜7月開催　全4回
時間　15:00〜18:30

Instagram @arkhenode